

オープンアクセス<sup>1</sup>

# NPO の運営と実際(6)

柴田 晋平

概要 前回は複式簿記の仕組みを簡単に説明しました。今回は前回の宿題を解きながら仕訳の練習をしてみましょう。誌面の都合上、プログラミングは次回にしました。

## 基本的な仕組みの復習

複式簿記には二つの重要な表がありました。一つは貸借対照表、もう一つは活動計算書です。ただし、商業簿記では、活動計算書は損益計算書と呼んでいます。(深い理由があるのですがここでは省略します。) 前回の復習ですが、それぞれの表は二つの重要な箱を持っていました。

貸借対照表 (Balance Sheet)		活動計算書 (Statement of Activity)	
資産 asset	負債 Liability	費用 expense	収益 Revenue
	正味財産	正味財産増加額	

貸借対照表の**資産**と**負債**という箱、活動計算書の**費用**と**収益**という箱です。それぞれの箱には金額が入りますが、その値を英語の頭文字を使って、a,L,e,R という文字で表すことにしましょう。たとえば、資産が 10 万円あれば a=100,000 とします。負債が 8 万円なら L=80,000 です。なぜか大文字と小文字を混在させて奇妙に思われると思います。どちらかに揃えるべきですよね。実はあとで紹介するプログラムを見やすくするため都合上、わざと表の左側を小文字、右側を大文字にしています。

現実世界では4つの箱の中に小箱を作ります、前回の宿題に合わせて考えると以下ようになります。

資産 a	負債 L	費用 e	収益 R
現金 a1	前受会費 L1	天文台経費 e1	受取会費 R1
振込口座 a2	望遠鏡引当金 L2		天文台収益 R2
コルキット在庫 a3	未払金 L3		

例えば、資産を現金、振込口座、コルキット(望遠鏡)キット在庫に分けて、

$$a = a1 + a2 + a3$$

という関係が成り立ちます。



この記事は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに基づくオープンアクセス記事です。引用の際は、著者名、題目、本会報名、No.ページを明記ください。

1

## 宿題を解いてみる

順番にデータを処理してみましょう。すべての箱の金額は最初 0 とします。

### 7/2 会費 3,000 円の振込みが 10 人からあった。

解釈：振込みと書いてあるので振込口座(a2)に会費収入があった

振込口座(a2)	30,000 円	受取会費(R1)	30,000 円
----------	----------	----------	----------

計算：a2 に 30,000 を加算し a2 の額が増える、R1 に 30,000 を加算し、R1 が増える。

このように一つの出来事(取引)で二つの計算操作が発生します。

### 7/5 振込み口座から 20,000 円を下ろして現金にした。

現金(a1)	20,000 円	振込口座(a2)	20,000 円
--------	----------	----------	----------

計算：a1 に 20,000 を加算し、現金が増えた、a2 から 20,000 円引き算し、預金が減る。

### 8/1 ゆかたで天文台に必要な文具を現金で 2000 円買い物した。

天文台経費(e1)	2,000 円	現金(a1)	2,000 円
-----------	---------	--------	---------

計算：e1 に 2,000 を加算し、a1 から 2,000 を引く、現金が減って、経費として計上したということ。

ここまでは、納得できますね。次に進みます。

### 9/1 天文台収入が 10,000 円あった。

現金(a1)	10,000 円	天文台収益(R2)	10,000 円
--------	----------	-----------	----------

計算：a1 に 10,000 を加算、R2 に 10,000 を加算、現金が増えてそれは天文台収益ということ。

### 10/10 コルキット望遠鏡を 5 台購入した。13,000 円だった。

コルキット在庫 5(a3)	13,000 円	現金(a1)	13,000 円
---------------	----------	--------	----------

計算：a3 に 13,000 円を加算し、a1 から 13,000 円を引く。現金支払いなので a1 が減少します。13,000 円分の現金の資産がコルキットという在庫資産に変身したわけです。ここで資産の合計は変化していないことに注意しましょう。コルキット購入で  $a = a1 + a2 + a3$  の値は変わっていません。

### 10/20 出前授業でコルキットを 5 台使って、依頼者から 15,000 円いただいた。

先月号の原稿で、10 台となっていますが 5 台の誤りです。お詫びして、訂正します。

ここでの扱い方(流儀)は複数あるのですが、今回は一番素朴なやり方だけを説明します。まず、現金収入の 15,000 円をコルキットの仕入れ額 13,000 円と差額 2000 円(儲けの部分)に分割して以下の 2 行で仕訳します。

現金(a1)	13,000 円	コルキット在庫 5 売却(a3)	13,000 円
現金(a1)	2,000 円	天文台収益(R2) (コルキット売却益)	2,000 円

計算：a1 に 13,000 を加算、a3 から 13,000 を引く。次に、a1 に 2000 を加算、R2 に 2000 加算。

4/1 次年度会費として 3000 円が 10 人から振り込まれた。

振込口座(a2)	30,000 円	前受会費(L1)	30,000 円
----------	----------	----------	----------

計算：a1 に 30,000 加算、預金残高が増えるが、L1 に 30,000 を加算。ここが一つのポイントです。これは収入ではなく前受金扱いになります。

6/1 出前スタッフに謝金を合計 10,000 円支払った。

天文台経費(e1)	10,000 円	現金(a1)	10,000 円
出前スタッフ謝金			

計算：e1 に 10,000 を加算、a1 から 10,000 を引く。現金が減って、それは天文台経費となる。

6/30 講師への支払いが 10,000 円あるのに支払っていないことに気がついた。

天文台経費(e1)	10,000 円	未払金(L3)	10,000 円
講師謝金			

計算：e1 に 10,000 を加算し、L3 にも 10,000 を加算する。仮想的に支払った感じです。ですから、現金 a1 はここでは変化していません。

6/30 将来望遠鏡を買うために毎年 10,000 円ずつ積み立てることにした。

天文台経費(e1)	10,000 円	望遠鏡引当金(L2)	10,000 円
望遠鏡積立			

以上の計算を実行すると、貸借対照表は以下のようになります：

資産			負債		
現金	a1	20,000	前受会費	L1	30,000
振込口座	a2	40,000	望遠鏡引当金	L2	10,000
コルキット在庫	a3	0	未払金	L3	10,000
			正味財産		10,000

資産は合計 6 万円ですが、正味財産は 1 万円しかないことに注意しましょう。

活動計算書は以下のようになります。

費用			収益		
天文台経費	e1	32,000	受取会費	R1	30,000
			天文台収益	R2	12,000
正味財産増加額		10,000			

正味財産が 0 円から出発したので、貸借対照表の正味財産と正味財産増加額が 10,000 で一致しています。現実の報告書では、当期正味財産増減額、前期繰越正味財産額、次期繰越正味財産額を明記することになっています。さて、答え合わせの結果はどうでしたか。

## 源泉徴収の取り扱い(補足)

謝金の支出を例題で取り上げましたが、現実の会計では源泉徴収が必要な場合ですので、その仕訳の方法を説明しておきます。一つの案件に関して複数行の仕訳が必要になります。次号で説明する簡易ソフトは1行ずつ処理するので、そのような方法を説明します。税率は今年度は10.21%です。

まず、「源泉所得税預り金」(L4 とします)という箱を新しく作ります。

天文台経費(e1) 講師謝金	10,000 円	源泉所得税預り金(L4)	10,000 円
-------------------	----------	--------------	----------

これで、e1 が 10,000 加算されますので、天文台経費として 10,000 が支出されました。それを一旦預かり金として L4 に加算します。

源泉徴収額 1,021 円を引いた、8,979 円を現金で講師料を支払いますので、このとき以下のようにします。

源泉所得税預り金(L4)	8,979 円	現金(a1) xx さんへ講師謝金支払い	8,979 円
--------------	---------	-------------------------	---------

計算：L4 から 8,979 を引く。L4 には残額 1021 円が残っている。a1 から 8979 円引く。つまり、現金が減る。これで一旦終了です。

後日、税務署にこの金額を納税します。納税した時に、以下のようにします。

源泉所得税預り金(L4)	1,021 円	現金(a1) 納税	1,021 円
--------------	---------	--------------	---------

計算：L4 から 1,021 円を引きます。a1 から 1,021 円を引きます。現金が減って、預かり金が L4=0 になり完了です。

どのようなものが源泉徴収の対象になるか、そのときの税率はいくらかというのは、税務署で確認するようにしてください。

今回はこれらの計算を自動的に行うプログラムを紹介します。

### 参考文献

[1] 日商簿記3級テキスト、商工会議所複利研修センター(キャリアック)発行

著者：柴田 晋平 (しばた しんぺい)

創設以来の小天会員です。星空大好き。専門は宇宙物理学。理学博士、山形大学客員教授。特定非営利活動法人星のソムリエ機構 代表理事。

shibata.shimpei@gmail.com

